ドメインコントローラ接続の管理
ONTAP 9

NetApp
December 20, 2024

目次

ドメインコントローラ接続の管理

検出されたサーバに関する情報を表示する

CIFSサーバで検出されたLDAPサーバおよびドメインコントローラに関する情報を表示できます。

ステップ

1. 検出されたサーバに関する情報を表示するには、次のコマンドを入力します。 `vserver cifs domain discovered-servers show`

例

次の例は、SVM vs1で検出されたサーバを表示します。

```
cluster1::> vserver cifs domain discovered-servers show

Node: node1
Vserver: vs1

Domain Name     Type     Preference DC-Name     DC-Address     Status
--------------- -------- ---------- ----------- -------------- -------
example.com     MS-LDAP  adequate   DC-1        1.1.3.4        OK
example.com     MS-LDAP  adequate   DC-2        1.1.3.5        OK
example.com     MS-DC    adequate   DC-1        1.1.3.4        OK
example.com     MS-DC    adequate   DC-2        1.1.3.5        OK
```

関連情報

サーバのリセットおよび再検出

CIFSサーバの停止と起動

サーバのリセットと再検出

CIFSサーバでサーバをリセットおよび再検出すると、LDAPサーバおよびドメインコントローラに関するCIFSサーバに格納されている情報が破棄されます。サーバ情報を破棄したあと、CIFSサーバはこれらの外部サーバに関する最新の情報を再取得します。これは、接続されているサーバが適切に応答しない場合に役立ちます。

手順

1. 次のコマンドを入力します。 `vserver cifs domain discovered-servers reset-servers -vserver vserver_name`
2. 再検出されたサーバに関する情報を表示します。 `vserver cifs domain discovered-servers show -vserver vserver_name`

例

次の例では、Storage Virtual Machine（SVM、旧Vserver）vs1のサーバをリセットして再検出します。

```
cluster1::> vserver cifs domain discovered-servers reset-servers -vserver
vs1

cluster1::> vserver cifs domain discovered-servers show

Node: node1
Vserver: vs1

Domain Name     Type     Preference DC-Name     DC-Address    Status
--------------- -------- ---------- ----------- ------------- -------
example.com     MS-LDAP  adequate   DC-1        1.1.3.4       OK
example.com     MS-LDAP  adequate   DC-2        1.1.3.5       OK
example.com     MS-DC    adequate   DC-1        1.1.3.4       OK
example.com     MS-DC    adequate   DC-2        1.1.3.5       OK
```

関連情報

検出されたサーバに関する情報の表示

CIFSサーバの停止と起動

ドメインコントローラの検出を管理します。

ONTAP 9 .3以降では、ドメインコントローラ（DC）の検出に使用するデフォルトプロセスを変更できます。これにより、検出対象をサイトまたは優先DCのプールに限定できます。これにより、環境によってはパフォーマンスが向上する可能性があります。

タスクの内容

デフォルトでは、動的検出プロセスによって、使用可能なすべてのDC（優先DC、ローカルサイト内のすべてのDC、およびすべてのリモートDCを含む）が検出されます。そのため、一部の環境では、認証時および共有へのアクセス時にレイテンシが発生する可能性があります。使用するDCのプールが決まっている場合、またはリモートDCが不適切またはアクセスできない場合、検出方法を変更することができます。

ONTAP 9 .3以降のリリースでは `discovery-mode`、コマンドのパラメータを `cifs domain discovered-servers`使用して次の検出オプションのいずれかを選択できます。

- ドメイン内のすべてのDCが検出されます。
- ローカルサイトのDCだけが検出されます。

  SMBサーバのパラメータは、 `default-site`sites-and-servicesでサイトに割り当てられていないLIFでこのモードを使用するように定義できます。

- サーバ検出は実行されず、優先DCのみを使用してSMBサーバを設定します。

  このモードを使用するには、まずSMBサーバの優先DCを定義する必要があります。

開始する前に

advanced権限レベルが必要です。

ステップ

1. 目的の検出オプションを指定します。 `vserver cifs domain discovered-servers discovery-mode modify -vserver *vserver_name* -mode {all|site|none}`

   パラメータのオプション `mode`：

   - `all`

     使用可能なすべてのDCを検出します（デフォルト）。

   - `site`

     DC検出をサイトに限定します。

   - `none`

     優先DCのみを使用し、検出は実行しません。

優先ドメインコントローラの追加

ONTAPは、DNSを介してドメインコントローラを自動的に検出します。必要に応じて、特定のドメインに対する優先ドメインコントローラのリストに1つ以上のドメインコントローラを追加できます。

タスクの内容

指定したドメインの優先ドメインコントローラリストがすでに存在する場合は、新しいリストが既存のリストにマージされます。

ステップ

1. 優先ドメインコントローラのリストに追加するには、次のコマンドを入力します。+ `vserver cifs domain preferred-dc add -vserver *vserver_name* -domain *domain_name* -preferred -dc IP_address, …+`

   `-vserver *vserver_name*`Storage Virtual Machine（SVM）名を示します。

   `-domain *domain_name*`指定したドメインコントローラが属するドメインの完全修飾Active Directory名を指定します。

   `-preferred-dc *IP_address*`、…には、優先ドメインコントローラの1つ以上のIPアドレスを優先順にカンマで区切って指定します。

例

次のコマンドでは、SVM vs1上のSMBサーバがcifs.lab.example.comドメインへの外部アクセスを管理するために使用する優先ドメインコントローラのリストに、ドメインコントローラ172.17.102.25と172.17.102.24を追加します。

```
cluster1::> vserver cifs domain preferred-dc add -vserver vs1 -domain
cifs.lab.example.com -preferred-dc 172.17.102.25,172.17.102.24
```

関連情報

優先ドメインコントローラの管理用コマンド

優先ドメインコントローラの管理用コマンド

優先ドメインコントローラを追加、表示、削除するコマンドについて説明します。

状況	使用するコマンド
優先ドメインコントローラを追加する	`vserver cifs domain preferred-dc add`
優先ドメインコントローラを表示する	`vserver cifs domain preferred-dc show`
優先ドメインコントローラを削除する	`vserver cifs domain preferred-dc remove`

詳細については、各コマンドのマニュアルページを参照してください。

関連情報

優先ドメインコントローラの追加

ドメインコントローラへの**SMB2**接続を有効にする

SMB.1以降では、ONTAP 9バージョン2.0からドメインコントローラへの接続を有効にすることができます。この処理は、ドメインコントローラでSMB 1.0を無効にしている場合に必要です。ONTAP 9 .2以降では、SMB2がデフォルトで有効になっています。

タスクの内容

コマンドオプションを使用すると、 `smb2-enabled-for-dc-connections`使用しているONTAPのリリースに応じたシステムデフォルトが有効になります。ONTAP 9 .1のシステムデフォルトでは、SMB 1.0では有効になり、SMB 2.0では無効になります。ONTAP 9 .2のシステムデフォルトは、SMB 1.0では有効、SMB 2.0では有効です。ドメインコントローラが最初にSMB 2.0をネゴシエートできない場合は、SMB 1.0を使用します。

SMB 1.0は、ONTAPからドメインコントローラに対して無効にすることができます。ONTAP 9 .1でSMB 1.0が無効になっている場合は、ドメインコントローラと通信するためにSMB 2.0を有効にする必要があります。

詳細については以下を参照してください。

- "有効なSMBのバージョンの確認"です。
- "サポートされるSMBのバージョンと機能"です。

がwhileに `-smb1-enabled`設定されて `false`いる場合 `-smb1-enabled-for-dc-connections true`、ONTAPはクライアントとしてのSMB 1.0の接続を拒否しますが、サーバとしてのSMB 1.0のインバウンド接続は引き続き受け入れます。

手順

1. SMBセキュリティ設定を変更する前に、有効になっているSMBのバージョンを確認します。 `vserver cifs security show`
2. リストを下にスクロールしてSMBのバージョンを確認します。
3. オプションを使用して、該当するコマンドを実行し `smb2-enabled-for-dc-connections`ます。

SMB2 の設定	入力するコマンド
有効	`vserver cifs security modify -vserver` *`vserver_name`* `-smb2-enabled-for-dc-connections true`
無効にする	`vserver cifs security modify -vserver` *`vserver_name`* `-smb2-enabled-for-dc-connections false`

ドメインコントローラへの暗号化接続を有効にする

ONTAP 9 .8以降では、ドメインコントローラへの接続を暗号化するように指定できます。

タスクの内容

このオプションをに設定 `true`すると、ONTAPでドメインコントローラ（DC）通信の暗号化が必要になります `-encryption-required-for-dc-connection`。デフォルトはです。 `false`暗号化はONTAP 3でしかサポートされないため、このオプションを設定するとSMB3プロトコルのみがSMB-DC接続に使用されます。

暗号化されたDC通信が必要な場合、ONTAPはSMB3接続のみをネゴシエートするため、この `-smb2-enabled-for-dc-connections`オプションは無視されます。DCがSMB3と暗号化をサポートしていない場合、ONTAPは接続しません。

ステップ

1. DCとの暗号化通信を有効にします。 `vserver cifs security modify -vserver` *`svm_name`* `-encryption-required-for-dc-connection true`

著作権に関する情報

商標に関する情報